（報告書様式Ｃ）
【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】（中学校用）

都道府県名	愛　知　県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	東海市立名和中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	３	３	４	１	１１	２３
生徒数	１１１	１０１	１２８	４	３４４	

Ⅱ　研究の概要
１．研究主題

○テーマ　確かな学力を身につけ、生き生きと取り組む生徒の育成 学力向上フロンティア事業の実践を通して

２．研究内容と方法
(1)　実施学年・教科

教　科	学　年	選　択　し　た　理　由
数学科	１・２・３年生	系統性がはっきりしており、習熟度の差が授業に大きく影響するため。
理　科	１・２年生	実験器具の扱いや安全確認が必要になる。また、生徒の多様な実験方法に応えるため。
英語科	１年生	習熟度に差が出やすい教科であり、教師による会話の実演が必要なため。

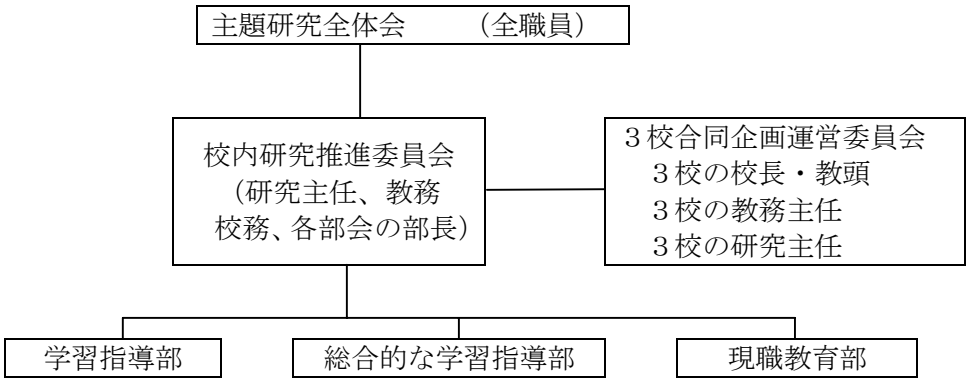
(2)　年次ごとの計画

平成14年度	○テーマ　確かな学力を身につけ、生き生きと取り組む生徒の育成 ○仮　説 ・個に応じたきめ細かな指導をすれば、生徒の学習に対する理解は深まり、学習意欲を高めることができる。 ○研究内容・方法 ・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 ・複数教師による取り組み ・対　象：２年生　「数学」 ・１学期：ティームティーチングによる指導 ・２学期：ティームティーチングに加え、生徒がコース選択できる場の設定 ・３学期：１単元を通して、習熟度別コース学習の導入

平成15年度	○テーマ　確かな学力を身につけ、生き生きと取り組む生徒の育成 ○仮　説 ・習熟度に応じたコースを設定し、適切な教材・教具を使えば、指導の効果をさらに高めることができる。 ○研究内容・方法 ・発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材教具の開発 ・１・２年生の「数学」は少人数による「習熟度別コース学習」の実践 ・３年生の数学及び理科・英語はティームティーチングによる指導の実践

平成16年度	○テーマ　確かな学力を身につけ、生き生きと取り組む生徒の育成 ○仮　説 ・学力をより正しく適切に評価すれば、生徒の意欲をさらに引き出し学力を、より伸ばすことができる。 ○研究内容・方法 ・　生徒の学力の評価を生かした指導の改善 　小学校と連携を図った「自己評価カード」と「個人カルテ」

(3) 研究推進体制



Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

・１，２年生の数学の「習熟度別コース学習」では、生徒の意欲がはっきりと感じられるようになってきた。「基礎コース」では、図表やピクチャーカードを多く取り入れ、基本的なことを中心にゆっくりと進めることにより、理解が深まることが次への意欲へ結びつき、また、「発展コース」では、発展・応用問題を多く取り入れることで、チャレンジするおもしろさにつながっていると実感できる。

・研究の取り組みを、できる限りホームページで公開している。県外も含め、教育関係者に、指導法や教材の扱い方など、多くの意見をいただいた。また、保護者の学校への理解や関心は高まっていると思われる。（H15.12 実施の全保護者調査「学校は少人数指導やＴＴ指導等のメリットを生かした指導している」と評価した人　75%）次年度の研究授業に生かしたい。

・「習熟度別コース学習」の研究は、他教科の「個に応じた授業の研究」へも発展させることができた。

・教研式全国標準学力検査（ＮＲＴ）の結果は、昨年４月実施の２，３年生の「数学」ではほとんど成果が見られなかった。「習熟度別コース学習」を本格的に実施したのは１５年度であるので、１６年４月の結果を分析したい。

・本校は、英語検定や漢字検定、数学検定などのチャレンジを重視している。全ての検定試験を学期に１回実施しているが、その合格率を上げるために、校内で独自に「名和中検定」という形で予備検定を実施している。ほぼ全員の生徒が何らかの検定試験には合格している。

２．今後の課題

・本校は３学年合わせて、１０クラスである。３学年とも「習熟度別コース学習」を実施したいと考えているが、その場合、３人の数学教師の教科持ち時間がそれぞれ２０時間を越すことになる。選択教科や学級の時間（道徳・学活・総合等）を含むと３年生まで広げられない実状がある。コースの設定方法やＴＴ指導との併用、評価の方法なども含め、よりよい方法を模索したい。

・本校には、小学校で「習熟度別コース学習」を受けている生徒が入学してくる。そのため、必然的にその対応を考えなければならず、校区の小学校と共同研究をしている。本年度は、相互の授業研究を中心に進めてきたが、次年度は、さらに「自己評価」や「個人カルテ」の研究を具体的に進める必要がある。小学校での記録が中学校で生かせるようなものを共同開発したい。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・教研式全国標準学力検査（ＮＲＴ）：年１回
・各種検定（英語検定・数学検定・漢字検定・歴史検定等）毎学期　１回実施

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・「中間発表会」　＜平成１５年１０月３１日（金）＞
　会場　本校　　（対象　県内外の学校　参加者　１２８名）
名和中学校区としての取り組みをまとめ、実状の報告をするとともに、様々な方より意見をいただいた。当日は、名和中学校と校区の小学校（緑陽小学校・名和小学校）でも、算数の「習熟度別コース学習」の授業公開をした。本校は、数学の「習熟度別コース学習」の他、全教科で「個に応じた指導のあり方」をめざし、授業公開をした。また、当日の指導案や研究授業の様子、中間発表の内容は、ホームページに掲載した。
　＜最終発表を、平成１６年１１月１９日に実施する予定＞

・「東海市小中学校ＰＴＡ研修会」　＜平成１６年１月１６日（金）＞
　会場　東海市商工Ｃ　（対象　市内小中学校　ＰＴＡ役員　１１８名）
名和中学校区としての「学力向上フロンティア事業」の取り組みの様子をプレゼンテーションを使って報告し、意見交換の機会をもった。

・「ホームページの活用」
ホームページに、本校の日常の様子や活動とともに、「学力向上フロンティア事業」の取り組み状況や授業研究会の様子、公開授業風景、指導案や単元構成案、中間発表会の発表内容、小学校の様子など、できる限りありのまま掲載している。このホームページを見て、本校を訪問される他県の教育関係者は、中間発表以後４組あった。また、ホームページへのアクセスは、約３００世帯に対し、１０ヶ月で約８，４００件である。（１月末現在）

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☐ １５年度からの新規校　☑ １４年度からの継続校

【学校規模】　☐ ３学級以下　☐ ４～６学級
☐ ７～９学級　☑ １０～１２学級
☐ １３～１５学級　☐ １６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導
☐ その他

【研究教科】　☐ 国語　☐ 社会　☑ 数学　☐ 理科
☐ 外国語　☐ 音楽　☐ 美術　☐ 技術・家庭
☐ 保健体育　☐ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　☐ 無